

### 3. 平成 18 年 3 月期 第 3 四半期 財務・業績に関する定性的情報等

#### (1) 経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等

当四半期の連結売上高(営業収益)は、卸電気事業(当社)の水力の渇水、平成 17 年 10 月からの水力、託送契約の料金改定による減収があったものの、火力発電所の高稼働及びその他の電気事業では当連結会計年度より新規連結した(株)ベイサイドエナジー(平成 17 年 4 月運転開始)及び(株)グリーンパワー瀬棚(平成 17 年 12 月運転開始)の売上を計上したこと等により、前年同四半期に対し 5.4%増加の 4,588 億円となり、営業外収益を含む四半期経常収益は、前年同四半期に対し 5.9%増加の 4,632 億円となりました。

一方、営業費用は人件費他の減少はあったものの、火力発電所の燃料価格の高騰等による燃料費の増加、松浦火力発電所及び橘湾火力発電所の減価償却の方法の変更による減価償却費の増加等により前年同四半期に対し 13.3%増加の 3,791 億円となりました。なお、営業費用の増要因には上記の通り減価償却方法を定額法から定率法へ変更したことなどによるものが含まれていますが、これは財務体質の強化にも資するものです。また、営業外費用については、支払利息の減少等により前年同四半期に対し 37.2%減少の 265 億円となり、四半期経常費用は前年同四半期に対し 7.7%増加の 4,056 億円となりました。

以上により、四半期経常利益は前年同四半期に対し 5.2%減少の 576 億円となり、渇水による渇水準備引当金の取崩し等を行った結果、四半期純利益は前年同四半期に対し 4.2%減少の 362 億円となりました。

なお、事業の種類別セグメントの業績(セグメント間の内部取引消去後)は次のとおりです。

#### (電気事業)

当四半期の卸電気事業(当社)の販売電力量は、水力・火力合計で前年同四半期に対して 3.8%増加の 472 億 kWh となりました。水力は、前年同四半期の豊水に対して当四半期は渇水(出水率 123%→88%)となり、前年同四半期に対し 27.8%減少の 67 億 kWh となりました。火力は、発電所の高稼働により、前年同四半期に対し 11.8%増加の 405 億 kWh となりました。

また、その他の電気事業の販売電力量は、前年同四半期の糸魚川発電(株)、仁賀保高原風力発電(株)及び(株)グリーンパワーくずまきに加え、当四半期は市原パワー(株)及び(株)ドリームアップ苫前他風力発電会社3社の通期稼働による増加、また、当連結会計年度より新規連結した(株)ベイサイドエナジー及び(株)グリーンパワー瀬棚の販売電力量により、前年同四半期に対し 125.4%増加の 13 億 kWh となり、電気事業合計では、前年同四半期に対して 5.3%増加の 485 億 kWh となりました。

当四半期の電気事業営業収益は、卸電気事業(当社)の水力の渇水、平成 17 年 10 月からの水力、託送契約の料金改定による減収があったものの、火力発電所の高稼働及びその他の電気事業の市原パワー(株)及び(株)ドリームアップ苫前他風力発電会社3社の通期稼働による増収、当連結会計年度より新規連結した(株)ベイサイドエナジー及び(株)グリーンパワー瀬棚の売上等により前年同四半期に対して 4.8%増加の 4,309 億円となりました。

一方、電気事業営業費用は人件費他の減少はあったものの、卸電気事業(当社)の火力発電所の燃料価格の高騰等による燃料費の増加、松浦火力発電所及び橘湾火力発電所の減価償却の方法の変更による減価償却費の増加及び当連結会計年度より新規連結した(株)ベイサイドエナジー他その他の電気事業の営業費用の増加等により前年同四半期に対して 13.9%増加の 3,491 億円となりました。

## (その他の事業)

当四半期のその他事業営業収益は、当社の附帯事業営業収益の増加及び連結子会社のグループ外売上の増加により前年同四半期に対して15.7%増加の279億円となりました。

一方、その他事業営業費用は当社の附帯事業営業費用の増加及び連結子会社のグループ外売上の増加に伴う売上原価の増加等により前年同四半期に対して6.7%増加の301億円となりました。

## (2) 財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等

当四半期末の資産につきましては、固定資産は当四半期より新規連結した(株)ベイサイドエナジー及び(株)グリーンパワー瀬棚による増加等がありましたが、減価償却の進行による減少等により前連結会計年度末から568億円減少し1兆8,332億円となりました。これに流動資産を加えた総資産は前連結会計年度末から359億円減少し1兆9,857億円となりました。

一方、負債につきましては、借入金の返済等により前連結会計年度末から662億円減少し当四半期末の負債総額は、1兆5,629億円となりました。このうち、有利子負債額は前連結会計年度末から666億円減少し1兆4,314億円となりました。

また、当四半期末の資本合計は、前連結会計年度末から304億円増加の4,217億円となりました。

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報等

当四半期末における現金及び現金同等物の残高は、営業活動により1,247億円の収入がありましたが、固定資産の取得などの投資活動として363億円及び財務活動として804億円の支出となり、前連結会計年度末残高302億円及び連結範囲変更による増加額他6億円等を加えた当四半期末残高は388億円となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費等の内部留保の増加がありましたが、法人税等の支払額の増加等により前年同四半期に比べ29億円(2.3%)減少の1,247億円の収入となりました。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、大間原子力、磯子火力2号機の建設工事及び当連結会計年度より新規連結した(株)ベイサイドエナジーの建設費の増加及びCBK水力プロジェクトへの出資等により前年同四半期に比べ51億円(16.3%)増加の363億円の支出となりました。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行による収入の増等がありましたが、借入金等の返済による支出及び中間配当の実施等により前年同四半期に比べ3億円(0.4%)増加の804億円の支出となりました。